

寺門
靜軒 著

痴談

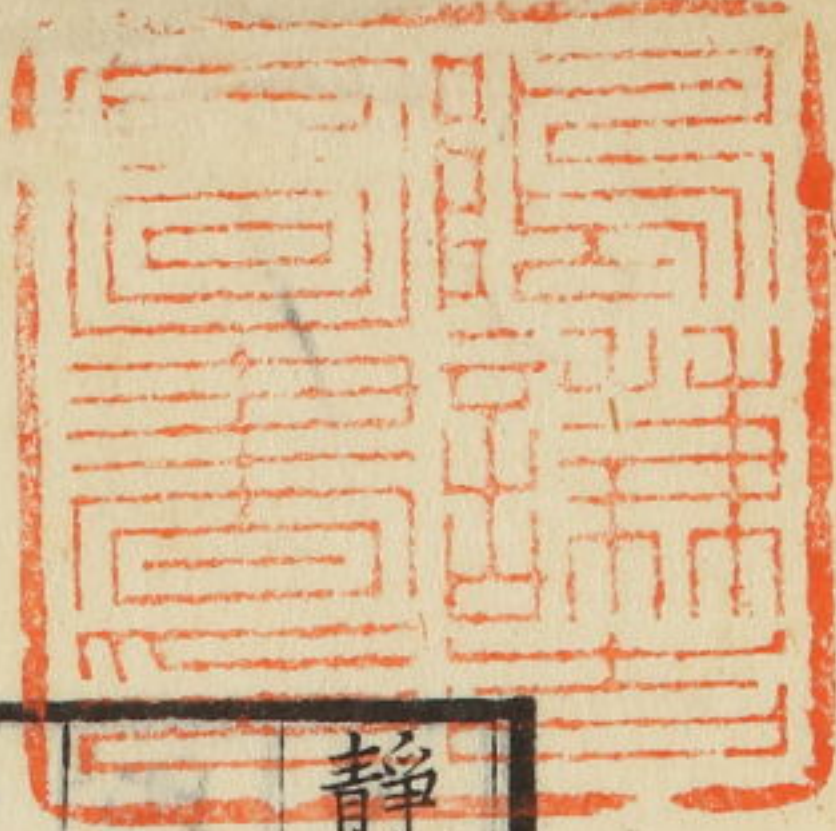
下

1 曾 5
41
2

和装本



門 1 曾 5
蹄 7 1
卷 2



靜軒痴談卷二

靜軒著

此方ノ角カ昔ハ蹴タルヲト云、蹴速ノ名ヲ以テ推シ知ルベシ後世ハ四十八手ナシト言テ搏

フハカリニナリタリ唐山ノ相撲ハ昔ハ撲アヒ

後ニハ蹴ルコトニナリタルト思ハル水滸傳ニ

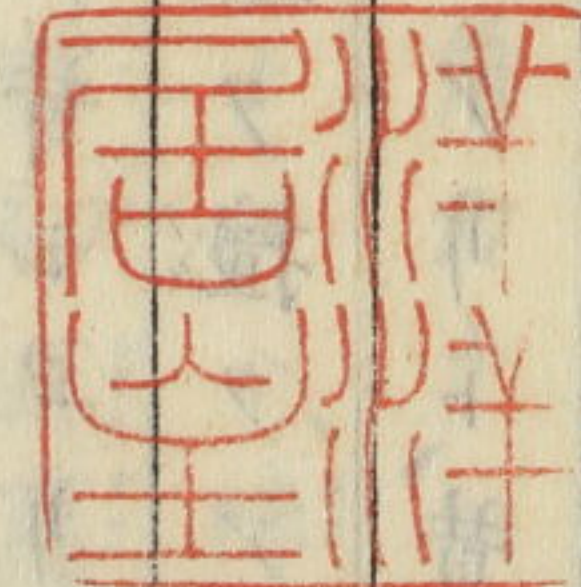
燕青カ相撲セシ光景ニテ推知セラル但シ趙歐

北カ相撲ノ詩ニ寸鐵ヲ持セズ手ヲ以テ搏ツ手

ハ鐵燬ノ如ク足ハ鐵鑄云々注ニ手ヲ以テ相

ノ

靜軒痴談卷二



ツヲ名ケテ布庫ト云、即千古ノ角紙ノ戯トアリ、
 此ハ彼方ノ昔ノ相撲ノ様子ナリ、本邦明和申ニ
 女角カ、ハヤリシトキ久漢ニテモ女角カノコト、
 司馬公ノ集ニ上元ノ婦人相撲ヲ論セシ状アレ
 バ、宋ノ世ニ流行セシトトエタリ、近年兩國ノ
 觀場ニ、盲人ト女子トニ、角カトテセ、又近日ハ豚
 ト犬トニ、スマヒトテス、此等ノ角カハ古今和漢
 ニ稀ナル珍テシキコトナルベシ、聞ク昔シヨリ
 比叡山ニテ毎年ノ秋月ノ夜本堂ノ鐘ヲ撞ヲア
 ヒヅニ、房々ノ僧ガ聚リテ、角カトルヲアリト、昔

ノ山法師ハ軍サヘナシタルヲナレバ、角カナン
 ドハ常ノヲナルベシ、今ノ法師ガ之ヲナスハ、殊
 ニ珍シト謂ベシ、何ノ縁故ヤト問シニ、當初正應
 トイヒ真濟トイフニ、法師ガ獨木杵ヲ闘シテ法
 ヲ試シテ争ヒシヨリ起リシト云、
 水滸傳ノ中ニ、史進燕青ガ彫青アルニテ、宋元ノ
 際ノ風俗ニ、ホリモノ、行ハレシヲ知ルベシ、此
 方ノ相撲トリハ、彫青セズ、是亦我が邦ノ風俗ハ、
 漢土ヨリ勝ルヲ推ベシ、周ノ太伯ガ斷髮文身ハ
 邈タリ、彼ノ土ニホリモノ、流行セシハ、何レノ

項ナリヤ、五代史ニ周ノ太祖少ノ賤シ、其頸ニ黥
ノ飛雀ヲナス、是ヲ以テ世ニ之ヲ郭雀鬼トイフ
後ニ太祖ガ劉旻ノ使者ニ對メ自ラ其頸ヲサシ
示ノ曰、古ヘヨリ豈彫青ノ天子アラシヤト、此亦
古今マシナルコト云ベシ、
予ガ先ニアラハセシ戲作ノ相撲ノ條ニ、角カノ
勝負ニヨリテ、天子ノ位定メノコトヲ記セシニ、某
來リイフ、戲本トイヘドモ無稽ノ事ハ戒テ録ス
ベカラズト警ラシシ、予甚ダ以テ然リトナセリ、
根ナシ言モ後ノ世ニハ實事ノヤウニナリユク

モノナリ、九尾ノ狐ガ三國ニワタリテ害ヲナセ
シナドノ虛談モ舊シク言來ルニ因テ實事ノヤ
ウニナリヌ、他カクノ如キト多カルベシ、三才圖
會ニ、九尾ノ狐ハ氣ノヨキ者トアリ、畫續錄ニハ、
陳彭年ヲソシリテ九尾野狐ナル者トイヘリ、
狐ノ話
昔ヨリ江戸王子稻荷ノ邊ハ、毎歲除夜ニ狐火多
ク燃ルトイフ、何ノ所以ナリヤ奇ト云ベシ、狐ハ
靈ナル物故カ、周易ニ象ヲトリ、詩經ニモ禮記ニ
モ出タリ、殊ニ漢ノ狐ハ日本ヨリ靈ナルヤウニ

天夜談隨錄等ノ小説ニ種々ノ狐ノ話アリ、其中
 ニ玄狐トイフテ、黒キ狐ハ最モ靈ナルヨシ、左傳
 ニモ狐ハ靈ナリト有テ、狐ガ人ヲ惑ハシ、人ニ憑
 一ハ常ノコトナリ、人ノ狐ニツク一ハ漢ノ話ニ
 モ見得ズ、珍ラシト云ベシ、或人言、某ノ郷ニ甚ダ
 貧シキ一獵者アリ、歳晩ニ及テ、客キタリ、狐ヲ一
 匹得バ、過分ノ賞ヲアタヘシトイフ、獵師大ニ喜
 ビ、數日カリクラスニ、曾テ狐ニアハズ、既ニ除夜
 ニ及ビ、一所ノ林ノ下ニ狐ノ午睡セシヲ認タリ、
 シカバ喜ビノアマリ、心慌テ、撃タガヘタリ、家

ニ歸テ自ラ恨ニ憂ニタヘズ、寐モヤラザリ、
 其夜獵師ノ功德院ノ住持ノ夢ニ狐アテハレ、拜
 伏ノ言、僕今日獵者某ニ憑カシ、苦ニ堪ズ、何トゾ
 憐ニ救ヒタマヘトイフ、和尚意ニ掛ザリ、日ガ翌
 夜ノ夢モ亦同シカリケレバ、不思議ニ思ヒ、獵夫
 ノ家ニ至テ之ヲ問ニ、其笑ヒコタク、我何カ狐ヲ
 苦メンヤ、但シ事カタノ如シ、狐ヲ忌ルニアタ
 ハズト云、和尚日子ガ忘レ難キ、原數金ヲウル
 ニアリ、我コレヲ與フニ、債ヲ償ヒ、衣ヲ贖ヒヨ
 キ春ヲ迎ヘヨトイフ、其喜ニタヘズ、狐ノコトハ

立地ニワスレタリ、其夕狐マ夕夢ニ入テ、和尚ニ
 恩ヲ謝セシトイフ、是奇談ト云ベシ、因テ思フニ、
 奇ハ奇ナリトイヘドモ、中庸ニ至誠ハ神ヲ感ス、
 中和ヲ致セバ天地ヲモ位セシムルト云ニヨレ
 バ人ノ一念ノ凝ル所、狐ヲ苦マシムル、其實ハ
 奇トスルニ足ザルナリ、世人ガ靈驗ノハ、ゲシキ
 神佛ヲ祈リセムルハ、狐ヲ苦マシムルト同ジ道
 理ナルベシ、
 某ワレノ祠ニ至テ、禱請ノイフ願クハ、我ニ一萬
 金ヲ得セシメタマヘ、九千九百九十九兩ハ奉納

セシ、傍ニ人アリ笑テイス、子カ乞所ノ如キハ得
 ルモノ、纔ニ一兩ノ云、豈愚ナラスヤ、某願ニ低聲
 ノイス、虚言ナリト、嗟乎、世俗ノ神佛ヲ祈テ福利
 ヲ乞ヒ、人ニ利ヲ啗ハセテ誘ヒハカル、此類才ホ
 シ恐ルベシ、
 下總州佐倉城ノ近地ニ人アリ、其名ヲトウカト
 云、狐ヲ惑ハス術ヲ得テ、今コレヲ其子ニ傳フ、遠
 近狐ノ害ヲ大ニ地方ヨリ来リ請バ、其地ニ至テ
 狐ヲバカシ、巴ガ家ニツシ歸リ、ワナニカケテ絞
 リ殺シ、其皮ヲ剥テ生理トナス、且ツ善ク狐ツキ

ヲ截ス故、ツカル、者来リ寓スル、月ニ夕エズ
ト云、

觀世音

或ハ言、神ナリ佛ナリ、同シ像ナルニ靈ナルアリ、
靈ナラザルアリ、人ノ歸依オホイニ異ナルハ、蓋
造ル所ノ像ニ淨財ヲ用ルト否ルアリ、又點眼ノ
人ノ徳不徳ニ出ラントイテ、予思フニ是レ
纒ニ今日ヲ以テ論スルナリ、一萬歳モ過ルウチ
ニハ、彼此興廢アルベシ、觀世音ノ中ニテハ、江戸
淺草ノ觀音ホド盛ハナシ、愈久ノ愈サカンニ衆

生ノ歸依マスキ深シ、江戸ノ佛ノ巨擘ナリ、因テ
按スルニ、隋園カ集ニ、胡應麟カ筆叢ヤ、王弼洲ガ
觀音本紀ニ言古ハ觀世音ノ像ニ婦人ノ形ナシ
云々、晋ノ義熙十一年、梁州ノ刺史楊敬ナル者、罪
ヲ以テ吏ニ下リ、桎梏セラル、觀音ヲ念ズル、十
日ノ夜ニ、一菩薩ヲ夢ム、俄ニノ枷鎖オノヅカラ
脱タリ、又慕容垂ガ北征ノ敵中ニ陥リ、深山ニ入
テ路ヲ失ヒケレバ、觀音經ヲ念ズルニ、忽チ一道
人ニ遇ス、示スニ道ヲ以テ、遂ニ家ニカヘルヲ
得タリ、又張興ガ妻ヤ、王球ガ夢ニシ觀音モ、皆沙

門ナリ、獨り南宋ノ甄龍友ガ觀音ノ像ノ題ニ巧
 笑情合美目盼彼美人云々トアリ、宋元ニ至テ始
 テ女像トナル云、因テ思フニ、觀音ノ身ヲ自由
 ニ變ズルコトハ、替門品ニアル如ク、男ニモナリ女
 ニモナリ、沙門トナリ道人トナリ、變ゼザルコト
 ナカルヘシ、善哉善哉其女ニ變シタマフ、尤モ人
 ラノ愛敬フカ、ラシムルト云ベシ、予嘗テ戲
 評ス、魚籃ノ觀音ハ、平家ノ官女ガ西海ニ落魄セ
 シ、模様アリ、楊柳ノ觀音ハ、初卯賽ノ妓ガ柳嶋ヨ
 リ歸ル風趣アリ、十二面觀音ハ、吉原ノ娼妓ガ樓

疏内ニ排列シタル光景トイハシカ、千手觀音ハ
 手段多キ妓ガ客ヲ待テ形狀トイハシカ、龍陽ガ
 女ノ粧スルモ、觀音ノ手ニ倣テ愛敬ヲ取トヤイ
 ハシ、易理ヲ以テ之ヲイハシ、太極サケテ兩儀ヲ
 生シ、水火トナリ山澤トナル、坎ハ必ズ水ナラズ
 艮ハ必ズ山ナラズ、水ニ屬スル者ハ皆坎ナリ山
 ニ屬スルモノハ皆艮ナリ、巽ハ長女ナレバ、大妓
 ニアツベク、兌ハ少女ナレバ、髪ニアタラン、觀
 音ノ種々ニ化スルハ、六十四卦ノ變ニ異ナラザ
 ルベシ、大學ニ云、君トメハ仁ニトママリ、臣トメ

ハ敬ニトマリ、子トメハ孝ニ止ル等モ亦是ナ
 リ、觀音ノ變化ナンゾ異トスルエタラシ、
 都下ノ俗言ニ、蝨ヲ呼デ千手觀音トイヌ、戲レタ
 ル辭ナレド、衆生ヲ救フ大慈悲心、蝨ニモ亦變ズ
 ベシ、瑯嬛記ニ、薛嵩ナル者性慈ニノ殺ヲ戒ム、微
 細蝨ノ如モ亦コレヲ害セズ、一夕ノ夢ニ被上ニ
 多ク蝨アリ、忽チ變ノ寸許ノ人トナリ、嵩ニ謂テ
 曰、君ノ既ヲウクル一日ニ非ス、今君急ナリ吾曹
 命ヲ效スノ秋ナリト、遂ニ被上ニ行列ス、既ニ覺
 テセ、ヲミレバ、一線ノ血痕ヨコタハル、一夫餘

乃チ死タル蝨ナリ、嵩イタク之ヲ惜ミケレド、其
 故ヲ知ラザリシ、是夜刺客來テ嵩ヲ害ス、其人モ
 ト古劍アリ、利コト甚シ、著ル所必ズ血ヲミテ、豆
 ニ死ス、其劍ヲ以テ一下ス、即チ血ヲミル、謂ラク
 死セリト、明日人ヲ遣メ、之ヲ問フニ、嵩恙ナシ云
 迄予オモフニ、嵩ヲ救ヒシ蝨ハ、或ハ觀音ノ化身
 ナラシ、

天狗
 徂徠先生ノ天狗說ニ、世俗圖ニ傳ヘ、象ノ鼻、鳩ノ
 喙、虎爪、雷目ニシテ、豐隆神ニ髣髴タルモノヲ稱シ、

天狗ト云茂卿コレヲ典籍ニ載ルニ易ニ也アリ
 良ヲ山トナシ狗トナシ黔喙ノ屬トス是其由ル
 所ノ象カ世ノ薦紳先生或ハ客星ヲヒキ或ハ外
 國ノ獸ヲ援久名ヲ執メ其實ニ惑フ妄ト云ベク
 大抵三代以上ハ但コレヲ山ノ神トイフ後世ノ
 訛ル所ハ丘言ニオヨル漢土ニ仙人多ク吾邦ニ
 天狗オホシ云凶予思フニ唐ノ仙人ハ日本ノ天
 狗ト同ジ様ナル物ナルベシ但シ此方ノ人ハ天
 狗ニナルヲ欲セズ唐人ハ仙ヲ欲スル多ク是
 亦皇國ノ人ノ漢人ニ勝ル所ナルベシ仙ヲ欲ス

ルハ長生ヲ貪ル心ヨリ出ルナラシ愚ト云ベシ
 死ダリ生タリ酔タリ醒タリ苦樂ノ變アルデコ
 ソ興アルナリ一年中春ノミナラバ花ヲ觀テモ
 樂シトハ思フマシ秋ノミ冬ノミナラバ月ヲミ
 テモ雪ヲ見テモ娛ナカルベシ禮記ニ飲食男女
 ハ人ノ大欲存スト有ドモ甘キ酒モ常トナリテ
 ハ厭ヲ生ス故ニ易ニ酒食ニ困ムノ辭アリ迷樓
 ノ遊ビガ樂アレバ十日旬日アソババ倦イトフ
 テ家ヲ思フ儻仙人ニナリテ死ナレズハ必ズ生
 ヲ惡ムニ至ラレ生ヲ戀テ死ヲ惡ム仙境ヘユキ

青車新言卷二
タガルハ、欲ブカキ婆々ガ、佛ヲタノシテ極樂ヘ
往生シタガルト同格ナリ、淨土ニ至リテ樂ガ常
トナラバ、必ズ穢土ヘ歸リタクナルベシ、百味ノ
飲食モ毎日食ハバイヤニナルベシ、五代史ニ張
筠洛陽ニ居テ其賞ヲ擁シ、酒色ヲ以テ自ラ娛
クラス、十餘年、人コレヲ地仙ト云、顧フニ他人
ヨリハ地仙ト稱シ、羨シシガ張筠ハヲリ、酒色
ノ困ニ堪ガリシナラン、天狗ノ背ニ翼ヲオフ
ハ、其飛行ヲ象ル畫師ノ作意ニ天王充ガ論衡ニ
畫工雷ノ狀ヲ圖スルニ、連鼓ノ形ヲナスト云ニ

同ジナナルベシ、修真錄ニ、君子國ニ鳳凰嶺アリ、
天狗ヲ出ス、一名胎詹トイフ、女仙玉膏ヲ以テ練
テ上藥トナシ、相饋ル此ハイカナル物カ、仙人ノ
藥ト云、
廣西通志ニ、牧童十餘人アツマリテ戯ムル、或ハ
歌ヒ或ハ舞ス、忽チ山半ヲミルニ、一人約長廿二
丈、面ヒロキ、三尺餘、長廿八倍ス、披髮鳥喙、背ニ
二翼アリ、伏メ羣童ノ樂ヲナスヲ觀テ、嬉然トメ
笑フ、是ハ此方ノ天狗ニ似タリ、又古今談概ニ、術
者アリ、哭ノ云、吾ハ天狗ノ為ニ殺レント、忽チ空

中ヨリ血才以頃メ頭足方ツ云也此モ亦我邦ノ
天狗ニ似タリ、
後山詩話ニ、彭祖八百歳ニメ死ス、其婦コレヲ哭
メ慟セリ、其鄰里トモニ之ヲ解メイス、人生八十
モ、ウベカラザルニ、翁ハ八百ナレバ何グ悲ミウ
ラミンヤ、婦イス、汝ノ輩他人ノイ故シカ思フナ
リ、八百ノ上ニ猶九百ガアラズヤト言シトイハ
此方ノ話ニ、萬年龜ヲ賣モノ来リ、其大ニ喜ビ
値ヲ論ゼズ之ヲ買タリシニ、二三日スグルト其
龜死タリ、其ソノ欺カル、ヲ憤リ、其商ノ至ルヲ

見テ汝ハ萬年龜トイヒタルニ、龜ハ昨日死タリ
説アリヤト云ケレバ、商コタヘテ這等ナラバ、昨
日ガ萬年メニ當ルベシト言シトイス、此欺カレ
シ人モ、長生ヲ欲スル者ニテアリシナラシ
老子ニ、死ノ凶ビザルモノハ、壽ナリトアリ、徒ニ
命ノナガキヲ壽トハイハズ、身命ノ長短ニカ、
ハラズ、善キ名ノ千載ニノコリテ草木ト共ニ朽
サルヲ壽ト云ナリ、故ニ孔子モ、仁者ハ壽ト説タ
マヘリ、老テ死ス世ニ益モナク命ナガキハ、柳氏
ガ所謂蝮ト同ジク、仙人トオナシテナリ、佛説ニ

ハ地行仙、飛行仙ナド十種ノ仙アリ、天、渡山、或ハ
海鳴ノ人ヲ絶スル境ニ休止スト云、此マタ輪回
ヲ斷メ、成佛セシト同シク、僂デ困ルベシ、馬トナ
リ牛トナリ、種々ニカハリユクコソ興有ベケレ

儒者

五常ノ道ハ人ノ道ニモ、セヲ約スレバ仁ノ一字
ニ歸ス、故ニ孔子モ仁ヲ主トシテ説クマヘリ、中庸
ニ仁ハ人ナリ、孟子ニ仁ハ人ノ心ナリト云、得テ
人ニノ人ノ道ヲ行フヲ仁ト云、凡ソ萬世界人ノ
生スル地ハ、何レニ至ルトモ、人ノ道ナカラシヤ、

後世ニ及ンデ人道ヲサトス者ヲ別ニ儒者ト稱
スルコトナリ、今ハ文字ヲ讀ミ、文ヲ作り詩ヲツ
クル者ヲ儒者ト言ヤウニナリ、又東涯先生ノ儒
名解ニ云々、儒ノ稱イマダ三代ニハ著レズ、サカ
シニ後世ニ稱ス、何ゾヤ、三代ノ隆ナル儒ノ實、君
臣父子ノ間ニ行ハル、故ニ儒ヲ以テ人ヲ稱セズ、
叔世ニ至リ、儒ノ實行ハレズ、故ニ先覺ナルモノ
ヲ稱メ、儒トイフ、儒道ハ即チ人道ナレバ、上ニ天
子ヨリ下モ庶人ニ至ルマデ皆儒ナリ、出家モ未
ダ成佛セズ、人間ニ井ルアヒダハ亦儒ナリ、

莊子田子方ノ篇ニ、莊子ガ魯ノ哀公ニ見エシニ、
公ノ曰、魯ニ儒士多シ、先生ノヤウナル方ヲナス
者少シ、莊子曰、魯ハ儒スクナシ、公ノ曰、魯國ヲア
ゲテ盡ク儒服スル何ゾ少シトイフヤ、莊子ガ曰、
其道アル者ハ未ダ必ズ其服ヲナサズ、公モシ然
ラズトセバ、何ゾ國中ニ吟ク、此道ナクシテ此服
ヲナス者ヲバ、之ヲ罪セントイハザル、是ニ於テ
哀公号スルヲ五日、魯國ノ中儒服スル者無ナリ
タリト云、江戸ノ諺ニ、味噌ノミソ臭キハ真ノ味
噌ニアラズ、儒者ノジユシヤ臭キハ真ノ儒者ニ

非ズト云フハ、莊子ノ話ニ似タル語ナリ、世人儒
者ヲ罵テ腐儒者トイヒ、放屁儒者ト云ハ、臭キヨ
リ言イデタルナランカ、
儒道ハ人道ナレバ、人ニ異ナラヌヲ儒ト云ベシ
故ニ孟子モ堯舜モ人ニ異ナルヲ無トイヘリ、然
ラバ臭カラヌヲ真ノ儒ト云ベシ、莊子ガ舜ニ羶
行アリト言シハ、周末ノ儒ノ臭キヲ毀リシナル
ベシ、然ルニ世俗古ヘヨリ、儒者ハ人ニ異ナル者
ト思ヒ、臭キモノト思フ、笑フベシ、固テ思フニ、禮
記ノ儒行篇モ、金ク後人ノ偽作ト見エテ偏ナル

行アル者ヲ舉テ儒トナセリ、或ハイフ漢土ノ儒
ハ出身シテ諸侯ニモナル故ニ、此方ノ儒ノ貧乏
ニ異ナリト、予イヌ漢ニテモ儒者テ井ルウ子ハ
貧窶ナルトト云フ、謝疊山ガ集ニ、方伯載ヲ送ル
序アリ、曰、今ノ世俗ニ十等アリ、一官一吏コレヲ
先ニスルハ之ヲ貴ブナリ、七匠八娼九儒十丐、コ
レヲ後ニスルハ之ヲ賤ムナリ、又鄭所南ガ集ニモ
九儒十丐トアリ、其貧キヲ知ベシ、本邦ニテ書
生乞食ト云ト同シ様ナリ、或ハ言、儒者ハ貧キコ
ソヨケレ儒ヲノ富シメバ、奔走ノ講釋スルモノ

有マシト、誠ニシカリ
編笠
秋齋閑話ニ、編笠ハ北條氏政ガ作り創ルトイヒ
傳フロトモ義經記ニ、佐藤忠信ノ編笠キタル
云ユレバ、猶フルキヲナラン云、江戸ノ風俗數
十年前マテハ、吉原ニアソブ者ミナ茶店ニテ編
笠ヲ備テカムリシヨシ、然ル故ニ今ニ編笠茶屋
ノ名ハ、殘ルリ笠ヲ買ハ娼家ニ遊ブヲ、ハバカリ
蓋ル故ナルベシ、長歌本ノ詞ニ、客ハ扇ノカキ子
アリトアルハ、笠キテモ仰ムケバ、猶面ガアテハ

ル、故扇ヲアテ、格子ヲ窺フ光景ヲ寫セシト
キケリ、昔ノ風俗オモヒヤルベシ、今ニテモ朝ガ
ヘリノ者富ルハ肩輿ニノリ、貧キハ手帕モテ面
ヲツ、ム、我ガ財ヲ擲テ興ヲ買シテナレハ他人
ニハ手憚ル理ハナケレドモ、遊樂ノ場ユエ羞憚
ルガ人ノ道ニテ善トイフヘシ、輿ニモ乗ズ手帕
ヲモカムラス、羞ル形色ナキハ、必ズ大胆ナル者
ナランカ、今ノ風俗庶人ノ葬禮ノホカハ、乞兒ナ
ラデハ編笠カムルナシ、近來ハ優人カ編カサ
鬘ルナリトナリ又、優ハ羞ル心ハナケレドモ、良民

ハ對シ羞ベキノ理アル所以ナランカ、
餘慶堂十二戒ノ中ニ、彼ハ一人ヲ以テ千萬人傳
妻ノ身トナル此方ニテ一夜妻ト云ト同シ、又情
史ニ、院中ノ名姬情ヲ定ムル夕例メ必ズ五金モ
ツトモ下ナル者モ亦三金ヲ投ズ、之ヲ初會ト云
此亦吉原ノ例ニ似タリ、又今古奇觀ニ、別人家ノ
養フ兒女ハ、便チ是搖錢樹ニシテ、千生萬活スコレ
マタ娼家ニテ好キ妓ヲカ、ヘタリ、賤キモノガ
好キ娘ヲ養フ又、金ノナル樹ト云ニ同シ、
漢土ノ娼家ニテ祭ル神又、白眉神トイフ、未ダ其

義ヲ詳カニセズ、我が土ノ娼門ニテ、陽物ヲ祠ル
ト同シ様ナルヲナルベシ、
一娼妓ニ狎客アリ、妓ナラビニ之ニ誓紙ヲオ
クル、二客ニナ喜シテ我レコソ誠ノ情人ナリト
思ヘリ、他日偶々二人一所ニ會ヒ、談ノ次テ始テ
狎ノ妓ノ同シナルヲ知り、遂ニ互ニ情人ヲ争
甲ガ盟書ヲ示シテ證トナスニ、乙亦イダシ示ス、之
ヲ視ルニ其辭一ツナリ、二人相視テ其騙セラル
ルヲ憤リ、トモニ往テ誓紙ヲ抛キ之ヲ責レバ、妓
ノ色少シモ動カズ、直チニ之ヲ燼火ニ付シ、微笑

ノイス真情ノアル所ナシ、此紙ヲ用シ、妾ガ情
實ノ二君ノ間ニアルヲ、他日オノヅカラ之ヲ知
ント、二客偶然トシテ口鉗シ、更ニ争ヒ抗テ其情ヲ
エントス、前ニ比スレバ其意マスキ、熾ナリト云、
妓某聲價キハメテ高キ會々五熟人ノ一齊ニ来
ルニアヘリ、之ヲ待スルニ由ナシ、忽チ一大白ヲ
把テ、一飲ニ斗酒ヲ盡シ、泥酔ノ廊ニ昏臥ス、酒氣
薫々タリ、五客厠ニ上ル、目撃セザルハナシ、皆ナ
思フ、這等ニ大酔ス、什麼歡ヲ奉ズルヲ得ント、
一箇ノ風波ヲ起ス者ナシ、曉ニ及テ皆去ル、妓

コ、ニ於テ始テ醒ルト云、ア、此手段ナクンハ
安ゾ一身ヲ以テ千萬客ニ當ルコトヲ得ク術窮
テ術ヲ生ス之ヲ無術ノ術ト云ベシ、

紫幟子

黒又リノ笠キテ紫ノ皮幟子ヲハキタルカ、江戸
ノ女ノ古粧ナリトキク、今ノ風俗ハ面ヲ掩フコ
ト無キノミナラズ頸マデ抽ダシテ、人ニミセル
様ニナリ又院曲本ノ辭ニ、素足ハヤボナ足袋ニ
ナリトアルニ、今ハ窮陰ノ時節ニモ、寒ヲ忍ビ幟
ヲハカズ、予カ少キ時吉原ノ聲妓ハ必ズ足袋ヲ

ハキシガ、今ハイカバナリヤ、京師ノ貴キ女ハ、今
ニ古俗ヲ失ハズ、被トイフモノヲ蒙ルヨシ、賤シ
キモ推ハカルベシ、然レドモ被キナカエ途中ニ
テ淨手スルコトハ憚カラヌヨシ、江戸ノ女子ハ暗
夜トイヘドモ、途次ニテハ決テ出恭セズ、之ニ反
ノ男子ノ憚ナキコトハ、他方ニ無コトナルベシ、然
ハ小便無用ノ札ハ、男子ノミヲ戒ル為ナレバ、或
ハ無用ト書テ、上ニ剪刀ヲ畫ルナドアリ、此所へ
小便セバ、之ヲキラント云意ナルベシ、好笑、
委巷叢談ニ、揚州ノ人ハ一日ニ三十文ノ木頭ヲ

吃ス三十萬家ヲ率トセンニ、大約十家ニノ糞櫃
一分ヲクラーフ、合テ之ヲ計レバ三十文ナリ、揚州
ハ甚ダ繁昌ノ地ナレバナリ云々此方ニテハ、殊
ニ豉ヲ嗜ミ吃ヘバ、江戸ニテ糞櫃ヲ食ヒヘラス
コト、凡ソ一日ニ幾數十文ナルベキヤ、揚州ニ百
倍スベシ、因テ思フニ、江戸ノ男ノ小便ガ途中ニ
費ルコト、幾萬斛ナルベキヤ、惜ムベシ、聞ク松前ノ
地ハ、田圃ナケレバ屎糞ノ不用ニナル故、人家糞
ヲトラスルニ、一桶ニ百錢ヅ、賃ヲ出ス、之ヲ海
濱ヘ搬ビユキテ棄ルトイヌ、是ハ、幾萬斛ナリヤ

惜ムベシ、因テ思フニ、松前ノ昆布ノ甘キハ、其ス
ツル所ノ屎尿ガ、自然ト養ヲナスニヤ、アラン、江
都ノ海ニテ漁トル魚ノ風味ヨキハ、日ニ費ユル
小便ガ溝ヨリ川ヨリ流レ出テ、潮ニ和メ、海ニ至
ル故ナルベシ、其カ著セシ魚譜ニモ見得タリ、思
フニ、タビ小便ノニナラズ、阿房宮ノ賦ニ、渭水ノ
膩ヲ漲ラスト云如ク、都下數萬ノ混堂ノ棄湯ノ
流レ出ルモ亦自ラ魚ノ養ヲナスヘシ、其證ハ山
村ニテ浴湯ヲタケ時ハ、闔村ノ者コモク洗浴ス、
後ニ膏ギリタル湯ヲ、田地ニ漑テ糞ノ助トナス、

是等ノコト江戸人ハ知ル者少シ予モ江戸ニ生
レタシバ少キ時ニハ草ノコヤシニナルコトヲ
知ラズ詩經ニ荼蓼朽テ黍稷ニノルト有ヲ見テ
糞ニ至レキ地ニ至テハ草ノ糞ニナルヲ農人
ニ教フ可ト思ヒ井タリシガ山村ニ至リテ之レ
バ其用ル所十分ノ中九分マテハ草ナリシ故ヒ
ワカニ慚テ且以笑シクモアリシ

屎神

佛家ニテ厠ノ神ヲ烏瑟沙摩明王トイフ不勤ノ
化身ナリト云佛説ニ修羅ト梵天帝釋ト戦ヒシ

時修羅ガ不動明王へ援ヲ乞フ爾時帝釋ハカリ
思フニ佛ハ甚ダ臭氣ヲキラヘバ穢ヲ用テ防ダ
ベシト糞ヲ以テ城ヲ築キイダセリ明王少モ不
潔ヲ忌ズ其城ヲ一時ニ食ヒ盡シタリ故ヲ以テ
烏瑟沙摩明王ヲ厠ノ神トナスト云因テ考ルニ
明王ガ糞ヲ食シ時ハ必ズ法ヲ以テ屎ヲ致ニセ
シナラン後世ニテ屎ヲ致ニスルト云諺ハ此因
縁ナリヤト思ハル江戸ノ俗争ヲ執ルトキニ敵
ヲ罵テ糞ヲクラヘト言モ亦是ヨリ出ルナラン
カ又俗ニ人ヲ罵テ屎ノカハト言モ穢ハシキ者

ト言義カ、又屎ダハケトハ、屎ダワレノ穢キヨリ
言イヅルカ、古ハ多ク便所ヲ川ノ上ヘ搆テ、糞ヲ
流セシ故ニ便所ヲ川屋トイフ、高野山ハ今ニ至
テ便所ハ皆溪流ノ上ニ築キアルヨシ、貝原氏ノ
諸州廻ニ三エタリ、山麓ニ不動ノ堂アリトイフ、
溪々ヨリ穢ヲナカレ出ス故ニヨルト云、
列仙傳ニ淮南王劉安、雞犬ヲ以テ天ニ升ル、天帝
コレヲ罰メ、天廁ヲ守ラシムト云、思フニ、天仙ノ
屎ハ潔ヨキコカハ知ヌガ、諸天ノ屎ガ上ヨリソ
、ギ来ルベシ佛説ニ穢土ト言ハ此故ナリヤト

思ハレテ笑スベシ、
便器ヲヲカハト云ハ、小廁ノ略ナルカ、又ヲマル
ト云、神通氏イフ、古事紀ニ、大嘗殿ニ屎麻理散ス
トアリ、又屎成神ノ名云々トモ見ユレバ、マルハ
マリノ轉ニテ、ヲハ小ナルベシ、蕉廬氏イフ、オカ
ハトハ、即チ御廁ノ略ニテ、オハ御真帶御湯モシ
ナドノオニテ原ケガラハシキ物ナレバ、品ヲヨ
ク言ナサレトテ、御廁ト呼レナルベク、宮闈ヨリ
出シ俗言ニテ、遂ニ民間ニオシ移リシナラシ云、
漢ニテハ便器ヲ虎子ト云、西京雜記ニ、李廣冥山

ノ北ニ臘人臥タル虎ヲ見ル也ヲ射ルニ一矢ニ
 テ斃ル其髑髏ヲ斷テ枕トナシ又銅ニテ其形ヲ
 鑄テ澠器トナストアリ虎子ノ名コトニ出ルカ
 但シ其前條ニ漢朝ハ玉ヲ以テ扇子トナシ便器
 ニナシテ侍中ヲノ執シムルトアリ更ニ考フベ
 シ
 小便ヲ舊事記ニユバリマルトイヘリ北國ニテ
 寢小便スルヲヨウハリト云道中ニテ馬子が
 小便スルヲバリヲコクト云是古言ノ存セシナ
 ルベシ按ニ今ノ俗物ヲ買テ中ゴロヤノニスル

ヲ小便スルト言ハ欲フカキヲ欲バリトイフヨ
 リ出ルナラシカ古事紀傳ニ麻理ハ大小便スル
 ヲナリ萬葉ニ尿遠麻禮竹取物語ニ燕ノ麻理才
 ケル舊糞云々

木綿

二宮氏ノ話ニ木綿ハ他ノ種ト千ガヒ只管毛ヲ
 ハギ赤膚ニノ播子ハ實ノリヨカラス若シ毛ヲ
 剥ズニウウレバ必ズ苗ヲ生セズ然バ彼ガ毛ヲ
 襦フハ彼ヲ生スル理アリ故ニ棉服スルガ陰徳
 ナリ蠶ヲ殺ノ絲ヲ取トハ大ニ逕庭アリ且木綿

八人ト共ニ世ニ生セシ物ナラント言シガ、異方
 ハ知ズ、唐土ト我が邦ニ於テハ、木棉ノ古ニナキ
 一昭然タリ、或ハ太古アリテ一タビ絶タル一ヤ
 諛餘叢考ニ、邱文莊ガ言、木棉ハ元ノ時ニ始テ中
 國ニ入ル、張七澤ガ溥梧雜佩ニ通鑑ノ梁武帝ガ
 木棉皂帳ノ一ヲヒク、史炤ガ釋文ニ、木棉二三月
 ヲ以テ種ヲ下ス、夏至ニ至テ黃花ヲ生シ實ヲ結
 變スル時ニ及テ其皮ヲ四裂シ、中ヨリ綻イデ、
 綿ノゴトシ、按ズルニ釋文ニ言フ所ハ、正ニコレ
 今ノ棉花ニテ織ル所ノ布ニテ、梁武ノ時スデニ

之アリ、禹貢ニ厥篋ハ織貝九峯ガ注ニ、今ノ南夷
 木棉ノ精好ナルモノ、之ヲ吉貝ト云ト見ユレバ
 夏ノ織貝モ亦今ノ草棉布ニ、是三代ノ時已ニ
 之アリ、其傳記ニ見ユルハ、南史姚察ガ傳ニ、門生
 アリ、南布一端ヲ送ル、察カ曰、吾ガ衣ル所ノモノ
 ハ唯麻布コノ物ワレ用ル所ナシ云々予意フニ、
 蔡氏ガ所謂書ノ織貝ガ果ノ木棉ノ精好ナル物
 ナラバ、二宮氏ガ言如ク、人ト共ニ棉ノ生セシ國
 モアリシナラン、續博物志ニ、罽國ノ諸蠻ナラビ
 ニ、蠶ヲ養ハズ、婆羅木ノ實ヲ收メテ、其殼ヲヤバ

ル中ニ綿アリ柳絮ノゴトシ、細カニオツテ幅ト
 シセヨ服ス、此ヲ娑羅籠段ト云是ハ此方ノ山マ
 エナルベシ、
 禮記ニ童子ハ裘帛ヲキズトアリテ小兒ニ帛ヲ
 キスルハ身ノ養ニ害アルノミナラズ、奢靡ノ習
 ガ僻ヲナセバ心ニモ亦害アルナリ、乃チ衣服ノ
 儉約ハ先ツ小兒ヨリ始ルヲ好トセシム、庶人衣
 著ヲ省略スルニ大槩老人ハ棉服、童子ニハ帛
 ヲ用フ、是タガヘルノ甚シキナリ、孟子ニモ五十
 ハ帛ニアラザレバ暖ナラズト有テ先王ハ庶民

ニモ老人ニハ帛ヲユルシ給ヘリ、然ルニ後世ハ
 漢モ和モ一轍トシエテ燕翼編ニ童子ニ裘帛ヲ
 キセヌガ古禮ニノ、之ニ朴ヲ教フル所以ナリ、今
 ハ則純袴ノナラセ初ヨリ已ニ然リ、アト父兄ノ
 子弟ヲ教フルト此ノ如キ安ク其長ノ赤子ハ心
 ヲ失ハザルヲ望ンヤ云々實ニ耆老ノ外ハ庶
 人棉服スルヲ善トス、但シ儉約ナリトテ貴人ガ
 棉衣スルハ所謂上ニ下ニ迫ルノ道ナリ、貴人ガ
 棉衣セバ賤人ハ裸テ井子バナルマシ、貴賤ノ分
 ハ正セズンバ有ベカラズ、但シ我輩ノ處士ハ必

新衣ヲ裁スルヲ能ハズ故衣買テ用ルノ多ク
レバ、棉ナル時モアリ、帛ナル時モ有リ、常産ナケ
レバ、常服ナレ、禮記ニ居士ハ錦帶スルト有ルハ
先王ガ慶士ノ身ノ上ヲ察ス、許セル意モアリヤ
ト思ハル、源氏物語ニ、儒者ガ袖ツマノ合ヌ衣キ
タルト云所ハ、衣着ナドニ意ヲオカヌ様ヲ寫セ
レカ、或ハ此モ貧窶ユエニ、故衣キタルサマヲ寫
セシ者ニモアラシカ、予年少ノ時、勸學寮ニ食客
タリシニ、歳晚ニ及ンデ衣ヲ新ニスルヲ能ハス、
寮主佛墾師ガ憐テ、二方金ヲ贈シ故衣ニ故衣肆

ニ往テ、五章ツキタル黒キ衣ヲ買テキシニ、染カ
ヘタル物ナレバ、日ニ照セバ、又ヒトツ章ガアラ
ハレシエタリ、詩經ニ、豈衣ノ六ナル無ト云ニヤ
トハ有ド、此方ニテ、六章ハヲカシ、裨官十返舎ガ
著作、滕栗毛喜多ハ、幟、涑衣、買憶合セテ笑タリ、
其カ話ニ、羽織ハモト私服ニテ、公服ヲ掩ヒカク
ス為ナレバ、昔シハ、外套ニ章ツクルヲ無リシニ、
紀文トイヒシ、豪商ハシテ、章ヲ著タレバ、或ル
諸侯ガ聞タマヒ、賤シキ者ハ奇異ナルヲナス
ヨト言テ笑ハレシト云、然ルニ今ハ貴賤トナク

一同ニ章ツクルトナレリト云、聞ク今ノ上下
 稱ル服モ、松永彈正ガ始テ制シタル物ニテ、昔
 ハ私服ナリシ由ナリ、其初ハ上下ニ襪積ナシト
 云、但シ古キ院曲本ニ、縵子ノ袴ノ襪積トルヨリ
 モ、君ガ心ハトリニクイト言コトバ有バ、ヒダト
 ルトモ、ヨホド古キナナルベシ、
 但シ兵書ニ、陣羽織ハ陣中ノ禮服ナリ、出陣歸陣
 勝鬨又ハ主將ノ前へ出ル時首實檢ノ節號令ヲ
 キク時敵陣へ使者ニ往トキ等用ルナリ、或ハ印
 ノ羽織ト言テ、戰場ニテ差物ノカハリニ用ル

アリト云、且後世ハ裳羽織越中羽織具足羽織夷
 羽織等種々也アリトキク、思フニ陣羽織ニハ章
 ツクルトモ有タルカイマダ質サズ、川柳點ニ、
 拜領ノ頭巾梶原ヌヒチ、メト云句アリ、因テ思
 フニ、賴朝公モ伊豆ニ食客タリシ時ハ、貧メ故衣
 キタルトモ有ベシ、頭巾バカリハ別ニアツラヘ
 テ、新ニ裁セラレシト想ハル、近年ハ故衣肆モ
 正札ヅキト言テ、初メヨリ豫セヌガ遠行スル
 ニナリ又世間ノ事ノ移リ易ルト、故衣ニ至マデ
 日々ニ新タナリ、但シ正札ガ常トナラバ、正札ノ

之ルニ有テモ、復カケ子スル様ニナルベシ、何如
 ナル良法ヲテモ、後ニハ弊ヲ生スルヲ推知スベ
 シ、舊規ヲ破テ時變ニ從フベキヲナリ、予嘗テ大
 學ヲ講ゼシ時、某ガトス、昔ハ盜臣ト聚斂ノ臣ト
 差別アリシヤ、後世ニテハ、盜ト聚斂ト兼帶ノ臣
 多久、甚ダ別ナシトイヘリ、是ハ人臣ノ變化ト云
 ベシ、
 晋ノ阮咸ガ七月七日ニ特鼻禪ヲ曝セシト云如
 久漢デハ乞巧樓ノニナラズ、星夕ニハ必ズ衣ヲ
 サラセシト云ユ、昔ハ本朝ニテモ然リト見エ

テ、武州ノ中ニテモ、今ニ衣ヲサラス地アリ、江戸
 ニハ今此コト絶又、但シ豪家ノ土用ボシハ、阮咸
 ガ傳ニ云如ク、錦綺目ニ潔タルトドモナリ、咸ニ
 同シキ我曹ノ土用ボシハ、當舖ニ委セテオケバ、
 管ナクテ好トセンカ、但シ他人ニマカセ置バ、必
 閑等ナルベシト思ヒ、或典主ニ也ヲ問シニ、主人
 晒テ答フ、然ク思フハ誤ナリ、原来ハ他人ノ物ナ
 レド、贖ナハザレバ我が有トナル、爭カ釐略ニナ
 スベキト言リ、是誠ニ然ルベシ、我レノミヲ見テ、
 他人ヲ見ザレバ、誤ルヲ萬事シカルヲ多カリシ、

或話ニ、甲ガ言、今年ハ疫病流行ノ死スル者多ク
 レバ、寺院ハ福田利益ナラン、乙ガ言、然ラズ寺ハ
 租越ヲ以テ本トナス、故ニ百回忌ヤ二百回忌ハ
 好事アルヲ善トス、葬禮多クシハ租家ノ死タニ
 ルトモアリ、然ラズトモ數々喪ニアヘバ、其家ヤ
 ウヤク貧シクナリテ、時月ノ香火料モ減ズルナ
 リ、本ノ窮ノ末ハ豊ナルトハ無トイヘリト、是確
 論ナリ、書經ニ、民ハ邦ノ本ナリトアリ、租稅ヲ
 厚クテラヌガヨシ、大學ニ、德ハ本ナリ、財ハ末ナ
 リトアレバ、財ノ末ノミヲ營ナマヌガヨシ、論語

ニ孝弟ハ仁ヲスルノ本ナリトアレバ、孝弟ハ本
 ヲステハ、詩文ノ末ニ走ラヌガヨシ、其他萬事オ
 シテ知ルベシ、
 墓相
 劄記、古人タマ氣ヲ望ム人法アリ、秦ノ始皇ハ
 時ニ望氣ノ者イテ、東南ニ天子ノ氣アリ、乃チ南
 巡メ之ヲ厭ス、又イテ金陵ニ王氣アリ、乃チ淮水
 ヲホリテ之ヲ泄ス、又光武帝イマダ貴カラザル
 トキ、蘇伯阿ナル者、南陽ヲ過テ曰、氣佳哉、云々、又
 陳敏ノム久或ル人曰、陳家ニ王氣ナシ、必ズ滅ベ

之、此古来氣ヲ望テ吉凶ヲ占ム、未ダ墓相ノ術
 アラズ、相傳ヘテ云、墓相ノ術ハ郭璞ニ始ルト、然
 レドモ後漢ノ袁安ガ傳ヤ、晋ノ羊祜ガ傳ニ、墓ヲ
 相スルト有レバ、郭璞ヨリ先ニスバニ、アリ、獨
 其術ノ行ハル、トハ實ニ郭璞ノ時ヨリナリ、陶
 侃周訪ナラビニ葬地ニ因テ三公トナリ、御史ト
 ナルトイヒ、且ツ南史宋齊二紀、劉后伯玉某々等
 ノ傳ニ、葬地ノトミユレバ、六朝ノ時ニ此術サカ
 シニ行ハレシコトナルベシ云々、漢土ニテ墓所
 ヲ相スルコト、後世ハ漸クムヅカシキトナリ、

善地ヲ得テ葬レバ、子孫ノ造化ヨシトイフ、父
 母ノ尸ヲ殯ノマ、ニメ、遂ニ葬禮ヲセヌ者アル
 ニ至ル、唐人ノ慾フカウメ、愚ナルヲ笑フニ堪テ
 アハシムベシ、俗砒ニ云、葬ハ藏ナリ、藏トハ完ク
 土ニ歸ルノ義ナリ、人ノ子タル者ゾ、親ノ完ク
 歸ルニ於テ之ヲ假テ身家ノ媒トナシ、後嗣ノ計
 トナシ、一ツニハ風水ニ求メ、二ツニハ年月ニ求
 メ、卦例星辰ノ吉凶ニ阻ラレ、千支龜筮ノ生尅ニ
 撓サシ、遂ニ數十年ニ至ルマテ、葬ルト克ハズ云
 本邦今ノ制、人死スレバ僧ニ託メ、寺域ニ葬ル都

城ノ地ハ必ズ然リ邑村ニ至テハ必ズ寺ニ於テ
セザルモ先兆ノ所ニツイテ之ヲ葬リ安ニ埋葬
スルヲ得ズ甚ダヨロシト言ベシモ此法制
ナクバ痴呆唐人ノマ子スル者イテ来ルヘシ世
ニハ家相ニカハハリ故ニ居宅ヲ毀チカヘ天天
物ヲ暴スル愚人モアレバ必ズ更ニ墓相ニ溺ン
ヲ推知ルニ且ツ漢人ノ愚カナルハ金玉珍
寶ヲ墳中ニヲサムル故後ニハ多ク賊ニ發カル
莊子ニ墓ヲアバクヲアレバ周ノ世ステ然リ
ト見得タリ後世趙宋ノ天子ノ山陵ハ金元ノ代

ニ至テ悉ク羨カル憐ムニキトイハシカクナカ
リシ
輟耕錄ニ曹操ガ疑塚七十二障河ノ上ニアリ云
又范石湖ガ七十二冢ノ詩ノ注ニ森然トシ彌望
ス北人ツ子ニ之ヲ増封因テ思フニ曹氏ガ意
ハ羨カレヌ備ヘニ數冢築キシヲナルベケレ凡
發カレジトスルナラバ金玉ヲ瘞ヌガ第一ノ備
ナルニシ左傳ニ匹夫罪ナシ玉ヲ抱テ罪アリト
云如ク墓所ニ於テモ亦シカリ
江戸ノ風俗昔ハ六道錢ト稱スルヲ葬ルニ必ズ

棺内へ六文ヅ、納タリ、是佛説ノ害ヲナス所ナ
リ、後ニ甲令イデ、之ヲ停止アリト云、僅ニ六錢
トイヘド、毛金玉ヲ埋ルニ同ジナリ、都下ニ任
スル者幾萬人ナリヤ、一年ニツモリ十年ニツモ
リテ計算セバ、不費ナルヲ知ルベシ、限アル幣ヲ
以テ限ナキ死ニ殉ス、限ナキ愚ト云ベシ、青砥左
衛門ヲノ聞シメバ、何如ナル思ヲナサシト想ハ
ル、昔ニ平重盛、黄金ヲ宋ノ育王山へ贈、天身後ノ
冥福ヲ修シト云、果ノ然ラバ、重盛モ猶愚ヲ免カ
シズト言ベシ、金銀銅錫ヲ海外へ輸スハ六道銭

ヨリ惜ムベシ、白石先生嘗テ深く嘆ゼリ、
夢

昔ヨリ注意ナキ話スル又痴人夢ヲ説トイヌ、莊
子ガ夢ニ蝶トナルノ論ヨリ觀バ、孰ガ夢カ孰ガ
覺タルカ、イツレガ主意アルカ、イツレガ主意
ナキカ、究竟ハ辨シガタシ、按ズルニ人ノ生テ
知ルコトアルヨリ、以テ來、見シキ、シテ、思フコト、
慮ルコト、哀シキ、樂シキコト、種々胸中ニヲサ
マリ、井テ、夢トナルモノト思ハル、然レバ、昨日見
タルコトガ今夜ノ夢トナリ、昔キ、シテ、ガ他年ノ

後ノ夢トナル故ニ意ヒヨラ又夢ヲ見タリト思
 フト有ドモ皆當初聞見セシカ思慮セシト云
 自レハ思タレド心ハ憶非テ偶然夢ニ入ルナリ
 書經ニ朕ガ夢朕ガトニ襲フトアリ詩經ニ其夢
 コレ何ゾコレ能コレ罷又牧人乃千夢又コレ
 ヲ占夢ニトフナド、アリ天昔ハ夢ヲ重ゼシ
 ナリ叢考ニ黃帝大風ヲ夢ニテ風后ヲ得タリ人
 ノ啓ヲトリ羊ヲ驅ルヲミテカ牧ヲ得タリ此夢
 兆ノ人事ニ徴アルモノナリ其後遂ニ占夢ノ術
 アリ周禮ニ云々左傳ニ城僕ノ戰ニ晉侯ガ楚子

ト搏テ其腦ヲスス鄢陵ノ役ニ呂錡月ヲ射テ之
 ニ中ル等コレミナ古人夢ヲ以テ重トナセシナ
 リ後漢ノ梁王暢ガ傳ニ王シバクト筮セシムト
 アリ是東漢ノ時ナホ占夢ノ人アリ晋ニ至リ樂
 廣ガ因想ノ説方コリテ夢ノ理アキラカナリ遂
 ニ占フトハ無ナリ又世説ニ衛玠總角ナリシ時
 樂令ニ夢ヲ問ス樂ガ曰コレ想ナリ衛ガ曰形神
 ノマシハラザル所ニ夢ミル豈想ナランヤ樂
 カ曰コレ因ナリ未夕嘗テ車ニ乗テ鼠ノ穴ニ入
 ルヤウナルトヲ見ザルハ皆想ナク因ナキ故ナ

リ、周禮ニ、一曰正夢感動スル所ナク、平安ニノ
夢ルナリ、二曰噩夢オドロイテ夢ルヲ云、三曰思
夢、サメシ時ニ思念スル所ヲ云、四曰寤夢、サメシ
時ニ言シ、一ヲ夢ミルヲイヌ、五曰喜夢、ヨロコブ
テ夢ルヲ言云、予按ズルニ、武王ガ朕ガ夢朕ガ
トニカナストイヒ、又殷ノ高宗ガ夢ニ傳説ヲ得
タルコトハ思夢ニメ正ト云ヘシ、但シ楊慎ハ高宗
ガ傳説ヲ得タルハ夢ニ託セシコトナラントイヒ、
顧炎武ハ武王ノコトヲ君ヲ伐大事ヲ夢ニ託セシ
ヤ、其レ誰カ也、ヲ信ゼント云、予思フニ、高宗、武王

實ニ夢ニシコトカ、或ハ託ノ衆心ヲ定メシコトカ、後
世ヨリ之ヲ論ズルハ是亦痴人夢ヲ説トオナシ
唐人ノ寐言ト云ハ、此等ノ論ヲ言ナルベシ、
國史ニ、帝夢ム紫宸殿ノ南ニ大樹アリ、樹ノ下ニ
虚位ヲ設ク、二童子キタリ泣ヲタシ、白ク曰、天下
ニ陛下ヲ容ル地無シ、獨此座アルノミ、既ニ覺ム
自ラ念フニ、文木ニメ南ニ從フハ楠ナリ、當ニ姓
楠ナル者出テ朕ヲタス、欠禍難ヲ定ルコト有ベシ
ト、因テ山僧ヲ召シテ之ヲ訪テ曰、地方ノ豪傑ニ姓
楠氏ナル者アリヤ、對テ曰、金剛山ノ西ニ楠正成

ナル者アリ云々中納言藤房ヲノ往テ正成ヲ召
サシト文史ニ政子カ妹ノ夢ヲ買シ等ノコトハ
真夢ナルヘシ

莊子ニ、文王臧ニ觀ヒ一丈夫ノ釣スルヲ見ル舉
テ之ニ政ヲ授ケント欲スルニ、大臣父兄ノ安
ゼザルヲ恐ル、釋シト欲スルニ百姓ニ忍ビズ、是
ニ於テ且ニム大臣父兄ヲ厲テ曰、寡人タマ
ヲ夢ミタリ、黒色ニノ頰アリ駁ナル馬ニ乘タリ、
命ノ曰、政ヲ臧ノ丈人ニ寓セヨト、父兄大臣ミナ
曰、是先君王ナリ、文王ノ曰、然ラバ、之ヲ占ハシカ

柴栗山ニ此ノ栗
山慮ナリ其説保健
大記ニ見ユ

皆ナ曰、先君ノ命又ナンゾ筮セシ遂ニ丈人ヲ迎
ヘテ也、政ヲ授ク此話コソ夢ニ託セシトニ元
且ツ莊子カ託言ナリ、楊氏カ高宗ノ夢ノ説ハ、此
ヨリ案シイダセシナルベシ
近衛上皇、シバク重祚ヲ夢ミタマヒテト言フヌ
栗山先生ノ論ゼシ其略ニ、蓋心ノ物タル靈明洞
徹ニ人、熟寐スルトモ體氣ト昏息セザル者アリ
故ニ平生ノ動思ニナシテ夢ヲナスノ云、其性サ
ダマリ、氣シツカナルニ至テハ、常人ノ昏夢ノ雜
擾千萬ナルカ若キニ非ズ、一心純實ニ人天ト間

ナシ、思念ノ感スル所精神ノ格ル所、又豈偶然ナ
ランヤ、其ニダリニ信ズル者ハ、往々之ガ為ノニ
アヤマラル、且、上皇梁武ノ如ク、其多ク疑フ者
ハ、神武、高宗ノ事ヲ弁セテ、假託ニ出ルトナス云
予イテ是論ヨロシトイヘドモ、要スルニ亦痴人
夢ヲ説クノニ、莊子ニ醒人ノ生ヤ、天行ソノ寢ル
夢ニズ、其サムル憂ナシ、此方ノ諺ニ、聖人ニ夢ナ
シトハ、此語ヨリ出タルナラン、
孔子ノ周公ヲ夢ニシハ、思夢ナルベシ、箇ノ話頭
アリ、或ル先生オノシハ、晝寢ノ學生ニ、
カク睡ラ

ユルサバル故、學生コレヲ誥リケレバ、先生曰、我
ハスナハチ周公ヲ夢エルナリト言ニ、因テ其ノ
翼日、學生モ亦午睡シタリ、師オホイニ怒テ、戒方
ヲ以テ撃サマシテ曰、汝ナンゾ晝寢スルヤ、生ガ
曰、小生モ亦周公ノ所ニ往ハシ、師ノ曰、然ラハ周
公ナニト云シ、曰、周公ハ汝ノ師ニ會見セズトノ
タマヒシ、
後人ノ精カハオヒク古人ニ及バヌ、
ノ螢火ニ照シ、雪光ニ映ゾ書ヲ讀シト云ハ、果メ

然ラズトモ、學問ニ刻苦セシ光景ハオモヒヤル
 ベシ、匡衡カ壁ヲ穿テ、鄰家ノ燈光ヲ引シト云モ
 亦シカリ、賃居ノ者カ安リニ壁ヲウガタバ、店主
 ヨリ咎メラルベク隣家ヨリモ責ラルベシ、且ツ
 江戸ニテ燈ノ替リニナルホト螢ヲ聚メナバ油
 ヲ買ヨリ値タカク富人ナラデハ為コト能ハズ
 且ツ昔ハ板本ナク貧生ハ皆ミツカラ書寫シテ
 讀シ由ナシバ其精カヲ竭セシ、何如ゾヤ、漢土
 ノ板行ハ周ノ顯徳年中ヨリ始マルトイフ、此方
 ニテハ元久ノ間、法然上人ノ選擇集ヲ板ニセシ

ガ始ノナリトイヘドモ、高師直ガオコセシ、板本
 ノ佛書アリトキケバ、足利氏ノ時ニ起リシト
 云、其前後五山ノ禪録詩集ハ、ミナ活板ナル由
 今ハ昔ト異ニ人書籍ニ不足ナキハ固ナリ、眼力
 ウスクナリテモ、眼鏡デキタシバ自由ナルコト
 古ニ倍獲セリ、方州雜録ニ、孫景章カ云、良馬ヲ以
 西域ノ賈胡ニ易ス、其名ヲ僂逮トイフ、又隋園文
 集ニ、眼鏡ハ明ノ世マデハ極メテ貴トス、或ハ内
 府ヨリ頒千、或ハ賈胡ヨリ購ス、有力ノ者ニアラ
 サシバ得ルヲ能ハズ、今ハ則天下ニ遍シ、本来外

洋ノ物ハ、ミナ玻璃ヲ以テ製セシガ、後ニ廣東ニ
 テ、其式ニ倣テ水精ヲ以テ製ス、更ニ其上ニ出夕
 リ又歐北カ詩ニ、相傳宣德年來自番舶、駕内府賜
 老臣、貴值兼金價トアリ、今ハ本邦ニテモ天下ニ
 アマ子久且ツ國製ノモノハ、百錢ヲ以テ買フヲ
 ウル、或人ノ話シニ、眼鏡ノ来リシ初メ、都會ノ人
 ヨリ僻郷ノ者ヘ之ヲ贈リシニ、始テ見タルナ
 シバ、村中ノ者アツマリテ評スルニ、或ハ云両掌
 ノ紋ヲ一併ニ照シシル天眼鏡ニテ、賣ト者ノ用
 フル物ナルヘシ、或ハイス達磨ノ眼ノ寒サラシ

ナラシ、或ハ言フ、魂魄ノ乾物ナラシ、或ハ言フ、牽
 牛織女ノ隕タルナラシ、里正イフ、思フニ必ズ目
 ノ類ナルヘシ、然レドモ臆見ヲ以テ之ヲ斷セバ
 都人ノ笑ヲ取ラシ、江戸ノ両國ニ四ツ目屋ト云
 肆モアリ、本所ニニツ目ト云所モアリトキケバ、
 飛脚ヲ遣テ確ト質スガヨカラント言シト、
 不倒翁
 叢考ニ、鬼童ノ嬉戲ニ不倒翁ト云モノアリ、醉漢
 ノ状ニ作ル、其中ヲ虚ニシ、其底ヲ實ス、旋轉シテ
 夕ホシズ、吳偉カ集中ニ詩アリ、之ヲ擴言ニ考ル

トキハ、唐ノ世ステニ此物アリ、酒胡子ト名ク酒ヲス、ムル具ナリ、歐北詩、糊紙顔何厚封泥是未、神掉頭、渾不止、絶似醉吟人トアリ、此方ノ糊紙ノ達磨ニ似タル物ニテ、コト少シク異ナルト見ユ、他方ハ知ラス、江戸ニテ雪混スルニハ、必ズ達磨ノ状ヲ控造ス、按ズルニ現ヲミシバ消テ跡ナキ故ニ、本来一物無ノ意ヲ取タルカ、又疱瘡ヲヤメル小兒ハ、糊達磨ヲ贈ルハ、思フニ其旋轉スルモ、卒ニ倒シザルモノ故ニ、痘兒ノ斃レヌヤウニト、祈リ祝スル意ニ出ルナラシカ、

傳燈ニ云、師ノ心ニ震且縁熟シ、行化ノ時イタル

ヲ念ノ云々、重溟ニワカビ凡ノ三夕ビ寒暑ヲ周

ノ、南海ニ達ス、梁ノ普通八年九月二十一日ナリ、

續法記正宗紀ニハ、並ニ普通元年ト云師金陵ニ至ル、梁ノ武帝召ノ問テ曰、イ

カナルカ是聖諦第一義ナル、師曰、廓然無聖ナ

リ、帝ノ曰朕ニ對スル者ハ誰ノ、師曰不識ナリ、

帝トカナハズ、遂ニ洛陽ニ至リ、嵩山ノ少林寺ニ

止ル、面壁ノ坐ス人コレヲ測ルナレ云々或ハ

云、達磨ノ面壁ノ壁ハ、屋壁ニハアラス、絶壁ナリ、

其住セシ少林寺ハ、河南府少室山ノ北麓ニテ、達

磨ガ面セシ絶壁アリト云、因テ思フニ、都俗ノ諺
 ニ、我が意中ニオカヌ人ヲ壁ニスルト云ハ、達摩
 ガ梁武ヲ壁ニシタト云ヤウナル意ニ出ルヤニ
 モ思ハル、
 坐禪ノ下ハ、天台ノ止觀ニ詳シク見得テ、佛法ノ
 ワタテヌ前ハ、無キトヤウニ思ヘドモ、莊子ハ
 周ノ代ニスデニ坐禪セシト云エテ、其著セル大
 宗師ノ篇ニ、真人ノ息ハ踵ヲ以ストアリ、詳シク
 ハ、説子ド、此語ヲ以テ其坐禪セシト知ルベシ、
 諸宗ノ祖師トチガフテ、達摩ハ小兒ノ玩具ニナ

ル故カ、靈驗ノアルヲ聞ズ、但シ靈顯ノナキガ達
 摩ノ得意ニテ、大師ナド、仰ル、ハ、心ニヲカシ
 カルベシ、俳諧師ノ芭蕉モ、達摩ノ禪味ヲ甘ジタ
 ル者ナルニ、近頃ニ至テ芭蕉ヲ大明神ニ祠リシ
 トキク、芭蕉モ亦ヲカシクテ堪ガルベシ、但シ貞
 永式目ニモ、神ハ人ノ崇敬ニヨツテ靈ヲマスト
 アリ、左傳ニモ其義見ユル如ク、究竟神佛ハ人ノ
 敬仰ニヨツテ靈ヲナセバ、俗ニイハユル鱸ノ頭
 モ信心ガテ、達摩ノ頭モ芭蕉ノ頭モ、信心セバ靈
 驗アルベシ、

孤樹褒談ニ、宋ノ世、雞鳴寺ニ妖怪オホシ、馬太后
 ガ太祖ニ告ゲ、孔子ノ木像ヲ置テ之ヲ鎮ム、此ヨ
 リ怪ヤム、因テ寺中ニ國子監ヲ立ツト云、予思フ
 ニ、雞鳴寺ニモ定メテ釋迦カ阿彌陀ノ本尊アリ
 レナランニ、佛ハ靈ナク却テ聖像ヲ以テ妖魔ヲ
 伏セシハ似アハヌ様ナレド、漢人ハ孔子ヲ崇敬
 スルヲ、佛ヨリモ重ク信心フカキ故ナルベシ、
 皇國ハ朝廷ニテハ、釋迦ヨリ孔子ヲ尊奉シタマ
 ヘトモ、民間ニテハ信奉セヌ故カ、達摩ト同ジク
 聖像ニ靈顯アリシヲ聞ズ、關東ニテハ足利ノ

學校ニ聖像アレドモ、土人ノ賽スルコトヲ聞ズ
 所謂敬ノ遠サクル道理カ、且ツ今ハ寺ノヤウニ
 ナリテ、僧カ聖像ヲ奉ズ、韓退之ガ復生セバ理窟
 ヲ云ベシ、但シ雞鳴寺ヲ以テミレバ、漢土ニモ例
 アリト云ベシ、
 漢ノ天子、世々孔子ヲ尊敬シテ謚ヲ奉リ、文宣王
 トアガムルニ至レリ、此亦孔子ノ意ニハカナハ
 ヌヲナルベシ、明ノ代ニ及テ玉号ヲ省キシハ、識
 見アリト言ベシ、程史ニ、連水ノ宣聖殿ニイタリ
 ミルニ、聖像ノ袵ヲ左ニス、蓋シ金人コレヲナシ、

明初ニ迄テ未ダ盡ク除カズ云々予思フニ、管仲
ナカリセバ、我祚ヲ左ニセシトイハレニ、金人
ツヒニ之ヲ左ニス、痛マシトイフベシ、然レドモ
其孔子ヲ恭敬スル意ハ、夷狄トイヘドモ漢人ニ
同シ、夫モ世ノ此ノ如キニ、

讀古事紀傳

予幼穉ノ時一二國書ヲヨミレコトアリシガ、結
髮以來ヒタスラ漢籍ヲ學ビ、且ツ浪人トナリテ
講説ニ衣食セシ故復國典ニワタルコトヲ得ズ、
皇國ニ生レナガラ上代ノ天子ノ御名サヘモ辨

ヘズ穉時ヨミレコトバモハ舉テ皆忘レタリ、夕
バ其レノミナラズ、今ハ漸ク老顏メ、書帙ヲ繙ク
モ、從テヨメバ從テ忘ル時ニ臨ンデ纔カニ心ヲ
慰ルノミ、忘ル、ヲ妙トシ思ナキヲ善トス、嗚呼
無用ノ長物、國家ノ蠹賊、死ヲ俟トモ數ナホ盡ズ、
幸ニ飢寒免テ餘齒ヲタモツ、太平ノ國恩、頂戴ニ
夕エザルナリ、頃ハ少シク暇ヲ得タレバ、本居氏
ガ著セシ古事記傳ヲカリテ讀リ、因テ其人ヲ追
想シ景仰ニ夕エズ、其卓見博覽ニ感伏セリ、然レ
愚ヲ以テセ、ヲミシバ、猶イマダ感アリト思フニ

ヨリ筆ヲ抽テ鄙懷ヲ記ルス、
 夫此世彫何ノ理アツテ何レノ時ニナレルト高
 コト焉ゾ知ルコトヲ得ンヤ、人ノ生セシモ亦然リ
 但シ其國ニ始テ生セシ男女、オノヅカラ夫婦ト
 ナリ其産タル子ノ兄弟ガ交リアス人ノ類ツヒ
 ニ蕃育セシコト我モ萬國モ皆シカルヘシ、後ニ闢
 ケシ國々ハ隣國ヨリ男女往テ住セシナラシ、本
 居氏ハ漢儒太極ノ説ヲ後ヨリ測リシ臆説ナリ
 ナド、駁シナガエ猶ワガ古ヘノ傳ヘ言ヲ信メ
 神代ニ注釋ヲ費セシハ惜ムベキコトゾト思ハル

孔子ガ墳書ヌステ、堯舜以下ヲ取シ如久神代
 ヲバ棄テ人代以來ヲトラバヨカルベキニ、花井
 キ翁ノ話ニ同ジキウツケタル傳ヘ言ヲ信ゼシ
 ハ漢人ガ賢シキ説ト孰カ是ナルゾヤ、同日ノ論
 ト云ベシ子ヲ棄タリ子ヲ殺シタリ、ナンドイフ
 教ニナラヌ昔シバナシ、神ヲ誣ヒ國ヲ辱シメ、害
 アリトモ益ハナシ、斷メ棄ルニ如ザルナリ、日ハ
 神ノ住ル國ニテ、浮橋ガ絶テ後、人ト黄泉ノ國ト
 往来タエタリナド言コトハ、佛説ニチカ久蘭説
 ノ日月ヲ世界ト云ニモ似タリ、且ツ被ヲサヘス

シバ、何ノ災禍ヲモ免ルナドイフハ、君父ヲ弑セ
シ惡人モ死ニ臨ンデ佛ヲ念ズシバ、極樂へ往生
スト云、釋氏ノ説ト同シカラズヤ、説得ガタキ所
ニ至レバ、遯辭ノ神ノナスワガハ、凡人ノ測り知
ルベキニ非ズトイフ、笑フニ堪タリ、道理ニカチ
ハ又事モ、神ノワガナリトテ崇ミ奉ゼバ、仁ヲ假
テ國ヲ盜ミ、佛ヲ唱へテ國ヲ蠹スルト、其弊同様
ニナリユクベシ、人代ニ至リテモ、神ガ廁ニ入テ
陰ヲツキシ等ノ、ウツケバナシハ、盡ク削テ可ナ
ラシ、國典ヲ汙スト云ベシ、抑我が邦ノ萬國ノ上

ニ拔デシトハ、皇統一脈萬世ニワタルヲ以テ
推スベシ、民心忠孝ノ厚キ、漢學ノ教イタラズト
モ、異方ヨリ過レタルト固ヨリナリ、獨リ病ム所
ハ、人ノマ子スルガ國ノ痲ナリ、然ル故ニ漢竺ノ
教イリ来テ、我が古ヲ失フタリ、勝テ嘆ズベキナ
ラズヤ、其學ノ行ハレシニヨリテ、迂儒ハ漢ヲ慕
フテ國ヲ卑メ、愚僧ハ佛ヲ尊ンデ神ヲ蔑ニス、皇
國ニ生レテ、此土ノ粟ヲ食ヒ、此地ノ布ヲカフム
リナカラ、國恩ヲ忘レテ一向ニ他ノミヲヨシト
思フ、惡ムベク哀ムベシ、本居氏ガ激スル所實ニ

理ナリ、但シ漢竺ノ學ノ来リシ頃ハ、幸ニノ彼レ
我ヲ奪ハント思フ心ハナク、タゞ海外マデ化ヲ
施セシトテ誇リ井タラシ故ニ國ニ憂虞ナキ
ヲ得タリ、當初モシ彼ニ奪フ心アリシナラバ、數
百年前ニ國土ハ既ニ彼ノ物トナリヌベカリシ
又豈大幸ト謂ザルベケンヤ、輓近人心ノ降ハ大
道ヲ棄テ小伎ニ走り、奇巧物件ニ氣ヲ奪ハ、忠
義正直ノ心ヲミガクヲ忘ル、時運ノ然ル所勢
已ムヲ得ザルヲカ、本居氏ヲノ復起シメバ、感
激サラニイカンゾヤ、

論語ニ杞徵トスルニ足ズ、宋徵トスルニ足ズ、文
獻タラザルガ故ナリノ語ヨリ出ルカ、古書ノ中
愚人ノ話ハ、多ク杞宋ノ人トナス、中ニ就テ列子
ニ、杞人ガ天ノ墜チ地ノ覆ルヲ憂シト云ヌ、愚ナ
ルヲトナセド予モ亦性ノ愚ナル故カ、之ヲ考ル
ニ、所謂清ル氣ガ上ツテ天トナリ、濁ルガ下ツテ
地トナルノ説ニヨレバ、上リシモノハ必ズ下ル
ベク、下リシモノハ必ズ上ル道理ナレバ、墜覆ノ
憂ナシト謂ベカラズ、浮橋ガ復デキテ、黃泉ノ國
ト接スルヲニナラヌトモ言カタシ、更ニ思フニ、

人事ニ喩ヘテイハ、君臣ガ位ヲカヘ、夫婦ガ地
ヲカフルハ、是レ亦天地ノ墜覆ナレバ、杞人ノ憂
シハ、周末ノ君臣位ヲカヘテ、其代ノ滅ントスル
ヲ憂ヘタル意ナルヤモ知ルベカラザルナリ、
凡ソ世間ノ事ハ、此ヨリ彼ヲ觀バ愚ナリ彼ヨリ
此ヲ觀バ亦愚ナリ、碁局ヲ學ビ茶事ヲ學ブハ、愚
ニ屬スレドモ、彼ヨリミバ文武ノ道ヲマナブ者
モ愚ニミユベシ、莊周ガ言ゴト久是非ハ窮リ無
キモノニテ、豨ガナケレバ伶俐ハ知レズ、子輩ノ
愚人モ世ノ賢者ノ資ニナラジト言ベカラス、是
此痴談ノナル所以ナリ、

富 符

家本發免書林

東京藤所四丁目

藤部屋太良兵衛

